

平成19年度第3回公立大学法人秋田県立大学経営協議会
議事要旨

1 日時：平成20年3月24日(月)15:00～17:15

2 会場：秋田ビューホテル 4階 「飛翔の間」

3 出席者

(委員)

佐々木委員、種市委員、根岸委員、渡邊委員

小林理事長、柚原副理事長、新岡理事、森理事、駒野理事、竹村理事

(監事)

倉田監事

(事務局)

伊藤次長、渡辺チームリーダー、加藤チームリーダー、佐藤チームリーダー、須田チームリーダー、能美チームリーダー、智田チームリーダー、鈴木シニアスタッフ、畠山職員

4 議事

定款の定めにより理事長を議長として会議が開催された。

初めに、平成20年度の経営協議会委員予定者について紹介があった。

(1) 定款に基づき経営協議会の議を経る必要のある事項について

1) 平成20年度年度計画について

資料に基づき説明があり、了承された。

2) 平成20年度予算について

資料に基づき説明があり、次のような質疑応答が行われた。

交付金が減るのは、県も経済団体も同じだが、施設整備費に関しては何か手当てしなければならないのではないかと。

秋田・本荘両キャンパスは建物は新しいが、大湯キャンパスはもう35年経過し、いろいろひずみがきている。校舎関係はH19年度予算で、県の補助金で整備していただいたが、農機具・牛舎等の整備が必要だが、整備費は20年度はゼロ査定であった。差し当たり優先順位から、機器の整備をしなくてはならず、3千5百万円ほどを予定した。そのような機器類は、リースというのはないのか。

リースもあるが、一時的にはリースは高くなるため、ものによっては買取で一時的にお金を出したほうがいいのかもある。

リースにしてコストをコントロールするというのもありうるのではないかと。

リースの場合は、更新時にレベルアップして同じ金額で契約できるというメリットがある。一時的に出すか、恒常的に出すかの選択を調べながら行っている。

電圧機の予備を購入する際、インターネットで探すと、安い中高市場を発見したが、農業機械は中古品ではだめなのか。

大潟キャンパスの農業機器類は県の公設試験研究所等からの中古品なのだが、毎年中古ばかり集めて逆に今度は修理費がかさんでいる。

予算について、受託研究収入が19年度決算に対して約半分となっているがなぜか。当初予算では確実な数字を挙げている。

収入が増えても支出も同額となるため、予算の規模が膨らむだけで、影響ない。

3) 平成19年度予算の補正と決算見込みについて資料に基づき説明があり、了承された。

4) 地域共同研究センターの名称変更について資料に基づき説明があり、了承された。

5) 研究料の設定について資料に基づき説明があり、了承された。

6) 事務局体制とプロパー職員の採用について資料に基づき説明があり、了承された。

7) 規程の改正について資料に基づき説明があり、了承された。

(2) 平成19年度第2回協議会以降の学内外情勢について

台湾の宜蘭大学及び東華大学との連携協力協定調印について、10周年記念事業に係る準備委員会(H20年度からは実行委員会)及び募金活動について、学部長選考の結果について、それぞれ追加報告があった。

1) 入学者選抜(学部及び大学院)の状況について資料に基づき説明があった。

2) 卒業生の進路(就職・進学)状況について資料に基づき説明があり、次のような質疑応答があった。

県内・県外別ではどうか。また、専門学校というのとはどのようなところに行くのか。

県内・県外別だと、学部毎には、県内はシステムで14%、生物資源で32%、全学合わせて20%程度。本学の学生の30%が県内出身者だが、10%強が県外に出ていく。また、専門学校は、大学で学んだ事から異なる進路を選んでいる。

大変すばらしい数字であると考え。本県出身者がもっと創造的な仕事ができるように、生徒たちに意欲を持たせていくことが必要だと考える。県内出身の高校生たちは、在学中から会社見学やインターンシップを体験させるように仕向けないといけないと考えている。

TDKは大きな工場を本荘に作るということなので、それに応えることができるだけの教育をしなくてはならないと責任を感じているところである。

3) 現代GP及び学生支援GPの実施状況について資料に基づき説明があった。

4) 理数学生応援プロジェクトへの申請については、不採用であったため説明を省略した。

5) JSTプロジェクト「地位再生人材創出拠点形成」への申請について資料に基づき説明があり、次のような質疑応答が行われた。

JSTプロジェクト等、積極的に申請していることは大変結構だと思うが、今ある実際の地域、公的な制度的な枠の中だけで勝負しているという感じが強いので、もう少し大きな提案が欲しいという印象を持っている。

プレゼンテーションまで行った際、参考にしたいと思う。

本荘に新しい工場ができることにより、いろんな形で発展すると思う。秋田県の産業構造は変えていかなければ長期的にはよくないと思う。次なる産業の育成について、大学でも一緒に考えていただければありがたいと思う。

お手伝いできるようながんばります。

今、地域の自立・定住ということを総務省で勉強会を行っているが、グローバルエコノミーではなくスモールエコノミーという考え方も意味がある。スモールだが、そこに住んでる人にとってはそれなりに意味があるという考え方。世界相手に勝負するという話が100も200も出てくるとは思えないので、地域に根ざしたものが必要と考える。年商が何千億円何百億円という産業構造の世界もあっていいが、それだけはないのではないかとこの話を最近よく耳にする。大学でやるのがふさわしいかわからないが、そういう話について若い人の感度を高めていくということができればよいのではないかと。新しく投資しなくても何も始まらないという発想だけではないものが、期待されているような感じを受ける。

経営システム工学科が商学部的なものか工学部的なものかはっきりしなかったので、地域の経営戦略を立てられるような人材育成を目指すこととした。JSTのプロジェクトは社会人を対象にしていくこととしている。

(3) 今後の法人及び大学のあり方について

1) 大学院学生確保の方策及び2) 入試制度の見直しについて森理事より説明があった。

秋田の父兄たちの大学院は余計だという意識を変えて行かなくてはならない。

そのとおりだと思う。

就職に関して、企業の側でどんな人材を欲しているかの調査を行うこととしておりましたが実行しておりません。次回にはぜひご報告したいと考えている。

父兄がどう考えるかという前に、企業がどう考えているかが父兄に伝わるような工夫が必要だと思う。

少子化で大変深刻な状態ですが、農業については非常に心配している。先日中国農業のシンポジウムがあり、関心のある高校生が全県から二十何名集まったが、大学生も高校生もいろんな会合に行ってみるべきだと感じた。会場の中に高校生・大学生がいると、緊張感があっていい。大学生・高校生にとっても、機付けにもなると思っていますので、機会があれば必ず出て行くべきだと考える。

大連携的なことをもっと拡大解釈しているいろいろな取り組みでいきたいと考えております。

(4) 次回の開催について

次回の平成20年度第1回経営協議会について、5月の末に開催予定となった。

以上